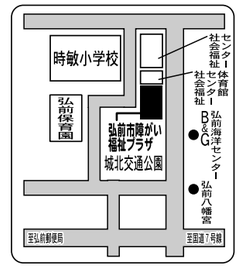
弘前市障害者生活支援センター情報誌

ぷらっと

第240号
2・3月号
発行日
令和８年２月１日

当センターは… 診断や手帳の有無、障がい種別や年齢に関係なくご相談をお受けする総合相談窓口です。発達が気がかりなお子さんについてもご相談下さい。11・12月の相談件数は142件、相談実人員は29名でした。相談無料・秘密厳守ですので、お気軽にご相談下さい(匿名でもご相談いただけます)。

◆住　所　弘前市大字八幡町１丁目９番地17(弘前市障がい福祉プラザ)(hirosaki-ssc@tenor.ocn.ne.jp)
◆電　話　0172−31−2400　FAX　0172−31−2411
◆開館時間　９：00〜17：00(開館時間以外は、バックアップ施設山郷館につながります)
◆休館日　毎週月曜日、年末年始　※来所相談は予約をお願いします



フラワー講座「お正月の生け花」　(12月26日実施)

昨年末の12月26日、新春を彩る『お正月の生け花教室』を開催いたしました。講師にお招きしたのは、小原流弘前支部長の中畑藤子先生です。先生の温かいご指導のもと、参加者の皆様が一花一花と熱心に向き合い、迎春にふさわしい華やかな作品を仕上げていらっしゃいました。会場には、大王松、赤百合、千両、小菊、葉ボタンなど、お正月の縁起物として親しまれている個性豊かな花材が揃います。松の清々しい香りに包まれ、皆様とても集中して取り組まれていました。一人ひとりの感性が光り、世界に一つだけの素晴らしい作品が完成。皆様にとって、この一年がこのお花のように彩り豊かな素晴らしい年となりますようお祈り申し上げます。

料理教室「デコ巻き寿司」　(１月18日実施)

今年度で事業終了を迎える当センターにとって、講師をお招きしての講座も今回が最後となりました。その節目を飾るべく、梅村里美先生のご指導のもと『デコ巻き寿司』を開催しました。当日は、お子様から大人まで、障害の有無を問わず、利用者様や施設職員など総勢20名が参加。カットした断面から愛らしいクマの顔が現れると、会場は大きな歓声に包まれました。その活気ある様子は新聞社にも報道され、まさに最後を飾るにふさわしい大盛況の一日となりました。最後は全員で記念写真を撮影し、皆様の温かい笑顔とともにセンターでの大切な思い出を刻むことができました。

弘前市障害者生活支援センター事業廃止のご挨拶

このたび、弘前市障害者生活支援センターは、令和8年3月31日をもって廃止となることとなりました。これまで当センターの運営にあたり、関係機関の皆さま、地域の皆さま、そして多くの利用者の皆さまから賜りました温かいご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。当センターは、土手町での活動を経て、昨年より弘前市障がい福祉プラザへ拠点を移し、支援を続けてまいりました。私自身も一昨年、所長として携わらせていただき、皆さまとともに歩む機会をいただけたことを大変ありがたく思っております。これまでに築かれた繋がりや想いが、今後も基幹相談支援センターや障がい福祉プラザへと引き継がれ、障がいのある方々の暮らしを支える力となることを願っております。長年にわたり本当にありがとうございました。

弘前市障害者生活支援センター所長　**藤田　朝子**

ピアカウンセラーからのメッセージ

26年間の感謝を込めて

2000年、弘前市障害者生活支援センターの設立時、工藤氏・雪森氏が来宅され、聴覚障害者の相談担当（ピアカウンセラー）を直々に依頼されました。それと同時に打診されたのが「手話教室」の開催でした。こうして月１回のピアカウンセリングと「手話を愉しむ会」がスタートしたのです。26年の年月の中で支援センターで共に過ごした様々なエピソードが彩られた時間は、私にとってかけがえのない宝物となりました。この度、支援センターの廃止に伴い、自らの役目も終えることになりました。長年親しんだ場所がなくなるのは誠に残念ではありますが、多方面かつ多様性のある支援へと時代が変化していく中で、その一翼を多少なりとも担うことができたのでないかと自負しております。26年の長きにわたるご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。またどこかで会いましょう。

聴覚障がいピアカウンセラー　**加藤　雅清**

観光冊子づくりが宝物

ピアカウンセラーを担当して11年、多くの障がい者とのふれあいがありました。支援センターとの出会いは施設で頂いた「ぷらっと」がきっかけです。色んな催事が毎月行われている中で、クリスマス会への参加で感動し、数多くの催事に参加し障がい者との交流を深めてきました。弘前市のバリアフリー観光冊子づくりに沢山の情報をもらい完成したことが唯一の宝物です。まだまだやりたいことがありますが、皆さんに会えなくなるのがとても残念です。

肢体障がいピアカウンセラー　**堀内　一芳**

編　集　後　記

本号をもって『ぷらっと』は最終号となりました。これまで長きにわたり、『ぷらっと』を通して、障がいのある方々の暮らしや地域でのさまざまな取り組みをお伝えしてきました。多くの方に支えられ、続けて来ることができましたことに、心より感謝申し上げます。